

令和5年度生野区区政会議(第2回こどもの未来部会) 主なご意見等(要約)と区の考え方、対応

開催日:令和5年12月19日(火)

開催場所:生野区役所 6階 604・605会議室

カテゴリ	主なご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
子育て支援	<p>保健師の業務は母子保健だけではなく、結核・感染症、健康増進、高齢・精神保健福祉、家庭訪問など多岐にわたる。その中で、妊産婦の人たちのケアについて、多忙な保健師に任せるのではなく、助産師などの人材も積極的に活用していけばいいのではないかと思う。</p>	<p>・妊産婦支援については、地域を担当する保健師だけでなく完結できるものではなく、助産師、看護師等の専門職をはじめ地域の子育て支援施設や民生委員等さまざまな機関との連携が重要だと考えております。 その中でも、母子の健康を支える専門職である助産師には、妊婦教室の講座開催、妊娠8か月頃の希望者への家庭訪問、出産後の赤ちゃん訪問などを担っていただいております。また、不安が高い妊婦や出産後養育が困難になっている家庭へ助産師を派遣し支援を行う取組みについては、派遣期間が妊娠期から3か月健診までであるところを、生野区では1歳児まで延長して行い、助産師による伴走的支援を継続しております。今後も助産師をはじめとしたあらゆる機関と連携し、取り組んでまいります。</p>
	<p>虐待の通報について、通報する側が虐待とは何かということをもう少し知っておかないと、なかなか通報に結びつかない。</p>	<p>これまで、児童虐待防止に向け、広報紙による周知や街頭啓発等の取組みを進めてきました。引き続き、児童虐待の防止に向けて広くわかりやすい周知に努めてまいります。</p>
	<p>誰も取り残さない、誰も取りこぼさないというのは理想ですが、現実としては隙間から漏れていく人が出てくる。行政だけではやはり限界がある。そのような中、生野区は、民間やボランティアなど、地域の中でいろいろな形で支えたいと思って活動している人たちがたくさんいる。 保健師さんの関わりは小学校入学前までで途絶えてしまうので、その先どうするのかと思うこともあるし、行政などの専門機関に相談するのはハードルが高いところもある。その前段階のケア(背中を押してあげる、支えてあげるなど)は、地域ができる部分ではないかと思う。 それらをうまく活用して支援していく形ができればいいのではないか。</p>	<p>・生野区では1歳6か月児健診を中心に発達に課題のある幼児の早期発見に努め、作業療法士等の専門職による乳幼児フォロー教室を開催しており、年齢や特性に応じた適切な支援が受けられる体制づくりに努めております。 ・主に乳幼児を担当する保健師は、常に子育て支援室との情報共有に努めております。今後も両方で連携し、乳幼児から学齢児まで切れ目のない支援を実施してまいります。 ・1歳6か月児健診、3歳児健診には臨床心理士等が従事しており、心理、発達相談を受けやすい機会を設けております。また、乳幼児が集まる場(地域)に保健師が出向く前相談にも取り組んでいます。今後も気軽に相談できる場の確保に努めてまいります。 ・また、専門職とは違うピアサポートを担ってくださる地域の方々も貴重な立場であると認識しております。保健師や行政の役割は直接支援だけではなく、時には人と人をつなぐ役割があると考えております。タイムリーに繋ぐことができるよう、地域の皆様とも連携しながら今後も体制づくりに努めてまいります。</p>
	<p>義務教育までは学校の先生やいろいろな人たちが見守ってくれるとは思いますが、それを過ぎた子ども(中学校を卒業して16歳~18歳)たちの問題も考えないといけない。高校を中退する子どもも多く、その子どもたちがいるなどいろいろなことに巻き込まれたりするなどの問題もある。大人側が「関心を持っている」ということを示すことが大事ではないかと考える。</p>	<p>大人が子どもに対して関心を持ち、すべての年代の子どもの声(思いや願い)を聴き、受け止め、大事にする。すべての子どもが安心・安全に生きることができ、育ちの質が保障されている社会の実現を目指して取組みを進めます。 また、高校生世代(高校未進学者及び高校中退者)には、再就学相談等の制度につなぐ支援を行ってまいります。</p>
	<p>不登校の子どもが増えているように感じる。不登校といっても、ひとりひとり事情や理由が異なる。学校の先生もなかなか踏み込めない状況があるので、学校と行政が連携しながらフォローして欲しい。</p>	<p>不登校の生徒・児童への学校の対応については、日頃から、各学校との連携・情報共有に取り組んでおります。また保護者からのご相談があった場合は、お子さんと直接面談を行ったり、他機関へつないだりなど、個々の状況に応じた支援を行ってまいります。</p>

カテゴリ	主なご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
子育て支援	<p>不登校児の親についてもケアを考えてほしい。 子どもとも向き合いや、こどもの付き添いなどで、仕事もままならず、不安やしんどさを抱えている。 学校自体が頑張ってるケアをしているが、教員数や支援級は不足している状況。 学童期のこどもの支援は正直薄いと思う。</p>	<p>学校が不登校のご家庭への対応の中で、保護者の方が希望される場合は、学校より区へ繋いでいただき、子育てに関する相談をお受けしております。 また、子育て中の保護者向けに年に一回『子育てに関する講演会』を開催しているので今後のテーマとしても取り上げていきたいと思っております。</p>
	<p>発達に課題がある子どもについて、問題だけを取り上げるのではなく、その特性について、地域やPTA、まわりの子どもたちも含めてみんなで理解しフォローすることが大切であると思う。 また保健師だけでなく、そのあたりの専門家も行政側にいたほうが良いと思う。</p>	<p>・発達障がい等の早期発見及び早期支援の強化のため、臨床心理士等の専門職を長期的・安定的に確保し、常駐することにより早期の段階で継続的な相談支援を実施する体制を構築しております。</p>
	<p>絵本の読み聞かせに力をいれているようだが、一方的なコミュニケーションではなく、たとえば手遊びであったり、人形劇であったり、こどもが参加できる取組みが大切であると思う。 また、地域で絵本の読み聞かせを行っているグループや団体が多く見受けられるが、組織化することはできないのか。</p>	<p>生野区では、大阪市のブックスタート事業に関連付けて、絵本の読み聞かせを中心に取組んでまいりました。今回いただいたご意見につきましては、今後の事業の参考にさせていただきます。 また、地域での絵本の読み聞かせについては、これまで地道に取組んでいただいております。それぞれの活動の連携や情報交換の場などについては、今後検討させていただきます。</p>
	<p>子育てサークルをやっているが、参加してくれる人が少ない。保育士さんも来て、サポートしてもらえる機会なので、もっと広く周知をしていけたらと思う。</p>	<p>生野区で発行している「にこにこいくの ミニ子育てマップ」や「子育て情報誌 にこにこいくのこっぴより」に、子育てサロンとして活動されているサークルなどの情報を掲載しています。また、生野区子育て情報サイト「いくのde育〜の」にも毎月の開催日を掲載したり、子育て応援イベントの際に周知しております。引き続き、広報・周知に努めてまいります。</p>
	<p>こどもサポートネットさんたちの連携とか関係性というのは、大丈夫かなと思うところもすごくある。 とりえず信頼関係、顔の見える関係が大切。行政も民間でやっているいろんな活動等にアンテナ張ってもらえたら。行政が真剣に聞いてくれるのであれば、こちらも情報提供はしようと思う。</p>	<p>大阪市こどもサポートネットは、支援の必要なこどもや世帯を学校において発見し、区役所等の適切な支援につなぐ仕組みです。事業を行ううえで、関係機関の皆さんとの信頼関係は特に大切だと考えております。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。</p>
学校再編	<p>学校再編時には通学路の安全も重視してほしい。</p>	<p>学校再編に伴う通学路の安全対策につきましては、子どもの安心安全を確保するうえで重要であり、開校にあたっては地域や保護者の方からなる学校適正配置検討会議において意見を頂戴し、実現可能な安全対策を講じております。 また、学校再編後も引き続き、学校での交通安全に対する指導を適宜行ってまいります。</p>
	<p>学校の再編でこどもたちが増えたにも関わらず、いきいきで利用できる教室の数は増えない。子どもの座る場所や宿題できる場所がない。空き教室があれば増やしてほしい。</p>	<p>児童いきいき放課後事業は、空き教室などがあれば学校と調整しながら活用しているところでございます。ご意見につきましては、児童いきいき放課後事業を担当しているこども青少年局と共有させていただきます。</p>
	<p>学校再編で、地域が広がったことにより、地域と学校の関係性が薄くなったように感じる。</p>	<p>地域と学校が連携し、子育てや教育に取り組んでいくことは、区役所としても重要であると考えておりますので、あらためて学校に対して、地域と一体になって取り組んでいくことについて働きかけてまいります。</p>

カテゴリ	主なご意見等(要約)	区の考え方、対応(要約)
スクールカウンセラー	<p>事前の質問で、スクールカウンセラーの常駐配備に関する質問をしたが、その回答に納得がいかない。制度のことを聞きたいのではなく、常駐配備を考えているのかいないのか、具体的なことを聞きたい。</p>	<p>相談支援の実績を考慮すると常駐配置するまでの状況には至っていないと考えておりますが、学校からのニーズは増加傾向にあるため拡充されており、今後もこども青少年局と連携しながら学校現場を支援してまいります。</p>